

パブロ・ピカソ『ゲルニカ』の世界

5. 死児を抱き絶叫する母



ゲルニカ市民の代表。ただし、ピエタ(死せるイエスを抱くマリア)を連想させる図像(何かを意味する絵柄)なので、これはイエスの死と再生の象徴とも重ねることができる。

彼女は爆撃の被害者を表しており、子の屍を抱く女は、ピエタ(磔刑で死んだキリストを抱く聖母マリア)を連想させます。彼女は号泣していますが、涙が描かれていません。なぜかという、無い方がかえって悲劇が感じられるとピカソが判断したからです

この女性のモデルは、ピカソをめぐって泣き叫びながら争った女性たちだといわれています。



「ゲルニカ」に描かれているものとは?その意味とは?

「ゲルニカ」は、スペインの内戦を題材にした作品です。1937年に反乱軍のフランコ将軍を支援するナチスによって行われたスペイン北部の小都市ゲルニカに対する無差別爆撃が題材になっています。この事件は、当時ファシズムの残酷さを象徴するものとして、国際的に激しい批判の対象とされていました。

制作: 2023年11月20日

反戦の意を込めて

爆撃の様子をリアルに描くのではなく、様々な角度から見た姿を画面にまとめて描くキュビズムや、現実を超越したシュルレアリスムなどの手法で描いています。

これによって、ゲルニカ爆撃だけでなく、戦争の悲劇さを人々に訴えています。

作者名
(ニックネーム)

Rommie

Famous Painters' Work 名画で塗り絵を楽しみましょう